

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

1998年 10月28日 発行

18 第11回大会
名簿号

発行者 平形義人

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0018 前橋市三俣町3-11-12
☎027-231-7212 FAX027-232-4082



・ぐんま日独協会第11回大会 ・平成10年4月16日 ・ホテルメトロポリタン高崎（白鷺の間）

■ハイマート18号の主な内容■

- 11回記念大会講演会 2・3
- 全国日独協会大会総会（豊橋） 4
- 日独協会総会（プレーメン） 4
- 会員のお便り 5～7
- お知らせ 8

お知らせ

ぐんま日独クリスマスの集い

- ・日時 98.12.6（日） PM2:00～4:30
- ・場所 前橋市 群馬会館（地下食堂）
- ・会費 2千円 交換プレゼント（千円相当）
- ・申込み 11月27日締切り、電話可（027-231-7212）
出席の方は同封の振替用紙又は
FAX（027-232-4082）
- ・5分間スピーチ希望者は受付まで
- ・駐車場は県庁・市役所・市内駐車場を
ご利用下さい。

第11回 ぐんま日独協会大会 (1998.4.16. メトロポリタン高崎)

会長 平形 義人

1月26日「日独文化比較から何を学べるのか」の演題で、大会の記念講演を、ドイツ-日本研究所長、ベルリン自由大学教授I.日地谷-キルシュネライト先生に御承諾を頂き、2月19日準備役員会を開き、当日を待った。

朝9時有志役員により会場の設置が始まり、10時高崎着の新幹線ホームに駅長自らの先導で講師夫妻御到着、我等はドイツの小旗を振って出迎え、駅貴賓室で少憩の後、「丹頂の間の歓迎会」(10:30~12:30)に臨んだ。佐藤進一副会長の名司会で、軽妙な来賓御夫妻のお話、荻原莞爾県国際課長、土金琢治群馬銀行顧問、小山禰一高崎商工会代表、等々群馬を代表する人々の示唆に富んだお話、就中5月全国植樹祭に天皇皇后両陛下が行幸され子持村や土屋文明文学記念館に御立寄り遊ばされるとの島田卓爾村長のニュース、更に各テーブルからの発言、共愛学園OGのドイツの歌、殊に飯塚実枝子様昭和44年の三島由紀夫の自刃前の池袋展覧会での感動を殆ど同時日に本日のゲストのI.日地谷-キルシュネライト女史も展覧会に行き居られ、三島の研究で博士号を取得されたお話は心に残るものであった。



1.日地谷-キルシュネライト御夫妻歓迎昼食会

ホテル7Fに来賓の待合室を設け、記者会見場も兼ねて貰った。全会員は12:30~13:30「せきれいの間」に移り第11回年次総会を開催した。角田勤議長の下、対馬良一副会長の経過報告、北爪和男副会長の運営方針の提案、伊藤廉平会計の予算決算報告(別添)があり、夫々承認された。役員改選は会長は留任、役員は別表の様に決定された。本会はドイツ好きの集まりであり、一同心を併せて、ベルツやブルーノ・タウトに伝統をもつ群馬に因む日独交流を守り育てようと心に期して、豊泉伊三男副会長推薦のラ・メーゾンの菓子「シンフォニー」と対馬さん心入れのサントリービールで解散した。



13:00開場した「白鷺の間」の公開講演会場は13:30開会の時は既に100人余の聴衆が詰めかけ、Frau.Prof.I.H.Kirschner講師の1時間に亘る「日独文化比較から何をまなべるのか」の文化講演を拝聴した。上毛新聞にも報道され、会員の記事が寄せられ、詳しくここに述べないが、素晴らしい日本語での日独文化の異同を谷崎潤一郎の「陰影礼賛」のエッセイから始まり、例えば1980年以降ドイツのどんな小さな町にもフトンベッドが売られており、頻繁に改良が加えられ、ドイツ人の要求に合はされてきた。それはまだ日本の布団なのか、それとももうドイツのフトンになってしまったのか。この様に日独異文化が同居し、同化し今日の変容の激しさを指摘された。又一層に両国の優れた個有文化への憧れも語られた。



15:00より高崎市内文学散歩(マイカーによる)を試み、市北部の土屋文明記念文学館を案内した。文学者である夫人、画家の御主人様への高崎での最大のプレゼントを考えたからである。相憎雲のため上州三山を御覧に入れられなかったが、御夫妻の御礼の言葉に「心眼」で見えましたよ、次回は「眞眼」で見せて貰いますよとのユーモアの溢れる、お手紙は、ドイツ人のものとも思えぬ上品な日本文と思はれますので次に掲載し、大会の報告を終ります。



土屋文明記念文学館

ドイツ-日本研究所
 〒102 東京都千代田区
 九段南3丁目3-6
 ニッセイビル
 Tel. +81-(0)3-3222-5077
 Fax. +81-(0)3-3222-5420
 e-mail
 djtokyo@djtokyo.twics.com



先週、群馬への本当に楽しい旅を夫と共に出来たことに対し、心からお礼を申し上げます。高崎駅に到着した瞬間から、昼食、講演、その後の土屋文明記念文学館訪問まで、実に見事に計画、準備された集いでした。私達へ対するごまごまとしたおもてなしには本当に感激いたしましたし、日独協会の皆様が、熱意と誠意をもって心から楽しそうに行事に参加されているのを経験し、非常な感銘を受けました。残念ながら当日ははっきりしない天気でしたが、翌日はさらに雨にみまわれ、美しい群馬の山々を見ることが出来なかったのはいささか心残りでした。しかし伊香保温泉では木暮金太夫ご夫妻にとっても親切にいただき、露天風呂付きの広大な貴賓室に泊まりびっくりただけでなく、翌日はいろいろと案内していただきました。特に印象的だったのは、竹久夢二の作品や書簡等の素晴らしいコレクションで、天気のせいかわずかだった訪問者のためもあり、静かに心ゆくまで鑑賞することが出来ました。帰日も木暮氏の運転手付きの車で高崎駅まで送っていただき、短いながらもぎっしりと印象が詰まった、群馬日独協会のための講演と伊香保温泉訪問の旅は無事終了いたしました。皆様の水も漏らさぬお世話のお陰か、あるいはまた温泉に入ったためか、帰京した晩の深夜にいたる会食も全く苦になりませんでした。

また忙しい日常生活に戻りましたが、平形先生のおっしゃっていた心眼を通して見た群馬の山々は、今でもはっきりと私達の心に焼き付いています。また何時か群馬を訪れる機会もあろうかと思いますが、その時は竹久夢二が愛した榛名を真眼で見たいと願っています。本当にどうもありがとうございました。夫からもくれぐれもよろしくとのことです。

イルメラ 日地谷 キルシュネライト

『キルシュネライト女史の講演を聞いて』

高崎市 白倉 卓夫

先日、ぐんま日独協会主催の講演会「日独文化比較から何を学べるか」(Prof.Dr.I.Hijiya-Kirschnerreit)という素晴らしい講演会を聞くことができた。講師のキルシュネライト女史が近代日本文学の研究家で大変な日本通だということはかねがね聞いていたが、それに加えて、かつて私が留学していたベルリン自由大学の教授ということもあって、大変親近感をもって拝聴した。彼女が日本人以上に正確で流暢な日本語を駆使して、誇張のない、研究者らしい話しをされ、門外漢の私にも大変分かりやすく、説得力のある好感のもてるものであった。これまで彼女は日本国内のあちこちで「国家間の客観的な文化

比較は不可能]であると主張してきた。今回の講演でも、この彼女の持論が展開され、文学はもちろんのこと、社会的問題にまでいたる広い分野にわたる具体的な事例をとうして、日本やドイツの文化が均一的、画一的に特徴づけられ、定義される危険性を繰り返し指摘した。

私達はこれまで、ドイツ人は狩猟民族で日本人は農耕民族、あるいはドイツには森の文化、日本には木の文化がある、といったことを折りにふれ聞かされてきた。しかしそういった見方が先入観となってその国の文化、芸術を画一的に色付けてしまい、ものの本質を一面的に据えてしまい、真の全体像を見失わせはしないかという危惧は、私の心の片隅にはいつもちらついていた。もの全て表もあれば裏もあり、外的見方もあれば内的見方もある。ましてや文化においておやである。日本のこと、ドイツのことを論ずる時、ものの多面性、多様性を十分考慮して論ずることの大切さをつくづく感じたものだった。

ドイツ連邦共和国大使の祝文

Sehr geehrter Herr Hirakata,

Ihnen und den Mitgliedern der Japanisch-Deutschen Gesellschaft in Gumma möchte ich zum 10-jährigen Bestehen Ihrer Gesellschaft herzlich gratulieren. Leider kann ich nicht bei Ihnen anlässlich der 11. Vollversammlung sein, die sicherlich neben dem Rückblick auf die vielfältigen Aktivitäten der vergangenen Jahre auch eine Vorschau auf die geplanten Veranstaltungen der nächsten Zeit geben wird.

Die Japanisch-Deutschen Gesellschaften in Japan und ihre Schwesterorganisationen in Deutschland fördern das Verständnis zwischen den Menschen beider Länder, indem sie persönliche Kontakte ermöglichen und Themen von gemeinsamem Interesse behandeln.

Ich wünsche Ihnen bei der Erfüllung Ihrer wichtigen Aufgabe viel Erfolg.

Mit freundlichen Grüßen

Frank Eilbe

平成9年度ぐんま日独協会

〈決算書〉

収入の部		
項目	金額	説明
会費	1,511,000円	会員会費・家族会費・法人会費・平成9年度大会参加費・大会講演会参加費・「クリスマス島の集い」参加費
雑収入	99,356	寄付金・料子等
前期繰越金	197,491	
計	1,807,847	
支出の部		
項目	金額	説明
会議費	505,567円	平成9年度大会・クリスマス費 446,000円 会議費・他 59,567
通信費	189,845	郵便切手・会報送料・他
事務費	52,968	事務用品・他
印刷費	516,745	会報・講演会チラシ・他
図書研究費	52,420	図書購入・他
講演会費	196,412	会場借り上げ・他
広報費	109,387	会報印刷・ホームページ・他
次期繰越金	234,503	
計	1,807,847	

〈予算書〉

収入の部		
項目	金額	説明
会費	1,360,000円	会員会費・家族会費・法人会費・平成10年度大会参加費・「クリスマス島の集い」参加費
雑収入	50,000	寄付金・料子等
前期繰越金	234,503	
計	1,644,503	
支出の部		
項目	金額	説明
会議費	500,000円	平成10年度大会・クリスマス費 430,000円 会議費・他 70,000
通信費	150,000	郵便切手・送料・他
事務費	30,000	事務用品・他
印刷費	500,000	会報・講演会チラシ・他
図書研究費	50,000	図書購入・他
講演会費	150,000	会場借り上げ・他
広報費	100,000	会報印刷・ホームページ・他
予備費	164,503	
計	1,644,503	

※3月31日現在 収入差し引き残高 234,503円

1998年4月8日 上記のとおり相違ありません。監事 黒田とめ子 ㊟

豊橋に於ける全国大会

(平成9年度)



豊橋駅の歓迎横断幕

右より久保田・対馬(右) コンラド・ヴェスター夫妻
中央がドイツ大使フランク・エルベ
藤田、藤本、平形、織田

1998.3.21豊橋市に於いて全国日独協会連合会、年次総会が開かれ、ぐんま日独協会から平形、佐藤、対馬、三人が出席した。Frank Elbeドイツ大使を初め全国から代表が集まり、地元会長佐々木慎一、西島篤師事務所総長の豊橋日独協会の熱烈な歓迎を受けた。

総会は樋口広太郎会長自ら議長をつとめられた。会終了後豊橋新埠頭のフォルクスワーゲン社を視察、1991年専用埠頭で輸入陸揚げ開始、1997年には累計20万台の輸入陸揚げを達成フォルクスワーゲン車2年連続輸入No1を達成したと云う。続いてE.v.ベルツ先生夫人、花夫人以下三代の家族の墓所のある豊川市の西明寺に至り、住職永田恵照師の先導で墓参、日独交流の元祖、ベルツ先生の高徳を偲んだ。



佐藤副会長 平形会長 対馬副会長(前夜祭)



ベルツ先生の墓前にて(西明寺)

独日協会総会見聞記

前橋市 佐藤進一



総会々場



ブレーメン市庁舎

1998年度独日協会総会は平成10年5月21日から3日間ブレーメンで開催されました。ブレーメンと云えばすぐグリムの童話を思い出しますが、現在のブレーメンはハイテク産業の中心都市でハンザ都市としての活力を現代に再現しております。総会々場は中央駅前広場から歩いて5分位の所にあるWORLD TRADE CENTERで議長は地元会長のHANS GIESLER氏でした。21日夜は前夜祭としてシュノール(Schnoor)地区にあるアウスパン(Ausspan)と云う古いレストランで会食。私は3年前のザールブリュッケン昨年のレムゴウに続き3度目の出席なので多くの友人から歓迎されました。翌日は一般の議事に続き日本からへの出席者の発言を求められ、東京の藤本常務、神戸の黒崎教授に続き私の番となったので、予め用意した原稿を暗誦しました。水戸の井上氏は陶芸家で今回ハンブルグに個展を開いていたので参加した訳ですが、通訳を同伴しての挨拶でした。正午には15世紀に建てられたと云う古い市庁舎を訪れ、市長から歓迎の挨拶を受けました。

午後はハンブルグ大学のポール(Pohl)教授の「日本文化」に関する講演があり、夜は駐独久米日本大使主催の夕食会がPARKレストランで開かれ盛会を極めました。翌日は総括協議でしたので私は前半のコーヒープレイクで退席しました。来年は5月13日からビーレフェルトで開催するとのことでした。(終)



私を囲んでの昼食会(右から3人目)



久米大使主催夕食会(立って話す大使)

唄独音楽事情

去る5月ウィーンからドイツへ飛び各地で音楽を楽しんだのでその報告をします。先ずウィーンでは国立歌劇場でチャイコフスキーのバレエ「眠り姫」を見ました。次いで翌日はムズィークフェラインでバリ管弦楽団の演奏するベートーヴェンの「ピアノ協奏曲第1番」とラフマニノフの「交響曲第2番」を聞きました。更にベルリンへ飛びフィルハーモニー（演奏会場の名前）でチャイコフスキーの「交響曲第5番」とベートーヴェンの「バイオリン協奏曲」を聞く。独奏者は現在売出し中のギル・シャハムでその素晴らしさに圧倒されました。ハンブルグではワグナーの楽劇「ラインの黄金」を見ました。これは予期しなかったスケジュールですが当日売りがあるかとも思っ劇場へ行った所、キャンセルの切符を売りがっている人に会い、譲り受けました。ケルンのフィルハーモニーでは「チャルダッシュの女王」の作曲家カー

ルマンの「作品集」を聞き、翌日は同じ会場で定期公演ブルックナーの「交響曲0番」を聞きました。10日間の旅行で6回も音楽を鑑賞できるのはウィーンとドイツの音楽文化の高さを現わすものと云えます。

(佐藤記)



ウィーン国立歌劇場 5月15日夜

“私のウアラオプ ライゼ”

沼田市 角田 勤



8月25日ラドルフツェルのレストラン
左 角田夫人 中央 古藤さん 右 ライマン先生

1970年代は、ベーム、カラヤンといった音楽の巨匠の全盛期で、私ども夫婦の夏の旅といえば、パイロイト、ミュンヘン、ザルツブルク、ウィーンなどヨーロッパの音楽祭を回るのが常でした。普通、コンサートは夜ですから、昼間観光し、肝心の演奏の時、眠くて困ったものです。

1980年代に入ってから、音楽会よりもドイツの小都市の魅力に引かれて出来るだけ沢山の街を見る旅をしました。当時あまり騒がれていなかったローテンブルクをはじめ、ゴスラー、ゾースト、ミッヒェルシュタット、バンベルク、マールブルクなどの枚挙にいとまがありません。ドイツの珠玉の小都市の美しさに驚嘆しました。勿論、音楽もあちこちで聞くことが出来ました。そして最近ではオルガンの音に魅せられております。

今年の夏は、ライマン先生にボーデン湖畔の宿を予約

していただき、美しいメットナウのガルニに泊り、はじめての滞在型の旅を楽しみました。

ライマン先生は1992年、4ヶ月沼田に滞在。その間、沼田ドイツ語会の指導、公民館でのドイツ会話講座を10回担当して下さい、又ぐんま日独総会でのスライドを使っの講演などまだ記憶に新しいことです。

ライマン先生は2年程前に軽い脳梗塞に罹りましたが、大部回復され、私どもの案内を、お世話している古藤さんとともにして下さいました。「また、沼田でドイツ語を教えてください」とお願いしましたところ「一寸難しい…」とおっしゃってました。そして日独協会の皆さんによりしくとの事でした。

さて、私どものウアラオプですが、気の向くまま公園や街をそぞろ歩きたり、ライマンさんの車でドライブしたり、オルガンを聴いたり、時にはフェッセンや、スイスのリギ山の方へ遠出したりして、幸い天気にも恵まれて、いい滞在でした。

ガルニホテルとは辞書を見ると「家具付き簡易ホテル」とあります。夫妻二人で経営している清潔なペンションといった感じです。

「11泊なんて、短すぎるヨ」と宿の主人や、同宿の連中に言われて、「そうかな？」と訝りましたが、なるほど日のたつのは速く、「最低20日位」は必要だなと感じました。

とにかく、ドイツ人が、その為に働くという滞在型のウアラオプを、今回はほんの少しだけでも味わえたい旅でした。

ブリュマー公使の離日

川口市 松浦孝久

昨年4月、当協会の総会開催の折、一大イベントとして開かれた講演会で「ドイツ統一前後の社会・経済情勢」をテーマに、卓越した知識を披露してくださいましたドイツ公使のクリストフ・ブリュマー博士。皆さん、覚えていますか？そのブリュマーさんが去る5月いっぱい2年半の日本勤務を終え、離日されました。そして、それに先立つ5月14日、公使主催のお別れ会が東京・広尾のドイツ大使館に隣接する公使公邸で開かれ、公使と親交のあった人々が集まりました。私ども夫婦も招待していただけたため、出かけて参りました。

われわれ日本人にしてみれば見上げるような立派な人格である一方、誰とでもうちとけて話す気さくな人柄ゆえ人気のあったブリュマーさん。お別れ会でも、ご夫妻そろって招待客をにこやかに出迎えていました。出席したのは外交・ビジネス界など各分野の一線で活躍し、ドイツとも関係深い数十人の方々でした。公邸のゲストルームと、それに面した芝生の庭を舞台に、参加者はビュッフェスタイルの食事をいただきながら和やかな一時を過ごし、公使との別れを惜しまました。

私たちとの会話の中で「2年半なんて短すぎたね」と、あまりに早い転任を残念がるブリュマーさんでしたが、次の任地であるモスクワでも、きっと活躍されることでしょう。駐日公使の後任はフォルクマー・シュトッカーさんという方で、ブリュマー博士も「私の仲の良い友人で、とても親切な男だよ」と、にこやかに話していました。ぐんま日独に対しては、「平形会長はじめ、会員の皆様によりよく伝えてください」とのメッセージを私たちに託されました。本当に明るくさわやかな公使でした。

※松浦孝久理事は、9月25日から政府派遣（報道関係）で2週間ドイツへ行かれました。

会員のお便り

ドイツ エッセン その(2)

1998.3.22 渋川市 堀口靖之

今回のエッセンで気づいたことが他に二三つありましたので記します。

一つは街の中心地オペラハウスとかが集中している地区等の芝がきれいではなかったことです。北国ですから伸び放題といっても背丈以上になりませんが、一夏手入れしてない感じで意外でした。歩道からの中の草木が整理されて刈り取られて無く、中心地区がそうになっていることは北米の各都市と比較して変に思いました。紙やゴミがちらかっていることはほとんど無く、それは普通だったと思います。群馬より太陽の少ない北緯52度の都市は雑草はさほど伸びないわけですが、ドイツ人はキレイ好きときめていましたからびっくりしました。適度の湿度があるのでしょうか9月だからでしょうか、芝生にスプリングラをしている景色は見ませんでした。カラフルな緑と花が街のコアになかったことは、リンデンの街路樹があってもエッセンの印象をくすんだ炭鉱の街にせざるをえませんでした。

次に違いを気づいたのはシュトラッセ（通り）のことです。この街は一本の通りになんと多くの名前があるのだろうか？一つの通りが極端に言うところの交差点ごとに名を変えて行く。例えば南北の大通りの一つは2ないし3kmの間で セゲロート オストフェルド ヒンデンブルグ ビスマルク アルフレッド と代わって行く。この長所は番地がほとんどなくてもよいことでしょうか、ドイツの慣習でしょうか。ニューヨークのプロウドウェイは名前に似ず狭い道路ですが、マンハッタンの南端から北上し市外まで続き、オルパニまで数十kmの道路です。ロスのサンセットブルバードも長く続きます。

三つ目は電柱電線がない街の美しさ街路の開放感すばらしさです。これはどの街へ行っても欧米の都市はそうなっていてうらやましい限りです。よほど田舎に行かないかぎり見あたりません。電気のない中世の町並みが建物と街路がそのまま連続して目の当たりにできます。前橋の中心部50号17号の一部が最近そうになってこんなにきれいな空と街があったかと感じた方も多いでしょう。

帰りにベルリンに寄ってみました。案内した女子学生バベツェは旧東ドイツ出身で最近一年間京都大学に留学しましたが、「再統一おめでとう！」といったら言い返されました。単に統一であり昔のドイツに戻ったわけではない、大ドイツはよいかどうか分からない、とのこと。前に西ドイツの16才高校生オリバヴォルフに「統一おめでとう」と同じことを言ったときReunification再統一と言いなおされました。ドイツ統一は東西でまだ温度差があります。底には東側の平均収入は西に比べてまだ65%くらいとの事情もあり、同レベルに達するのは後4年位かかるだろうとのことを知りました。

これでだいたい終りました。ありがとうございました。

“ドイツの環境対策と日本”

高崎市 井上 晃 良

私は1988年より1997年までの約9年間留学生として、また社会人としてドイツに滞在していました。

私が滞在していた80年代後半から90年代後半はドイツにとって色々な意味で大きな変革がもたらされた期間であったと思います。勿論読者の皆様も御承知の様に政治的にドイツは東西統一と言う世界史に残る変革がありました。しかし、その大きな変革の中でドイツは別の分野でも大きく変革していました。それは環境問題です。私自身、ドイツに滞在し始めた当初、この問題にあまり関心がありませんでしたがドイツで生活を続けてゆくにつれ政府を始めとする行政、企業、そして市民が一体となってこの問題に取り組んでゆく姿をまのあたりにし、私自身の考えも少しずつ変わってゆきました。その一番は危機感でした。このまま、地球の先進諸国がそのままの状態では環境を破壊し続ければ地球全体に大きな被害が及ぶことが次々と明らかになり、マスメディアを通じ大きな社会問題となっていくのです。

特にドイツはヨーロッパの中央に位置する地理的な要因もありました。多くの隣接する国々を持ち、海に面してる所も少なく、全て自国内で解決するより方法がなかったこともあるでしょう。チェルノブイリの事故では他国からすぐさま影響を受けることも身をもって知っている訳です。酸性雨による森林の立ち枯れも人々の危機感をあおったことも事実だとおもいます。

東西ドイツが統一されたこともドイツの市民の環境意識に大きな意味を持ちました。統一当時、東側の環境対策は資金不足の影響もあり西側に比べ大きく遅れをとっていましたが、その後の約5年間でそれは西側のレベルか、又は最新設備の導入等によりそれ以上のレベルになったのです。

私自身ドイツで生活する一市民として教えられたことに環境問題はそこに生活する全ての人々の協力があって初めて成り立つということでした。そのため行政は企業に対して、商品パッケージ全てに“グリーンポイント”表示義務付けに代表される厳しい法律を作り、消費者には分かり易く市民の立場にたった指導があったことです。

企業はその厳しい法律を守るために努力を惜しまなかったことは、やはりその危機感が土台になっていると私は思います。

一つの良い例を挙げると、私がドイツに滞在して3

年目ぐらいの頃、つまり1991年頃より商品のパッケージが次々と変わってゆくことに驚かされました。例えば歯磨き粉は当初、そのほとんどが紙の箱の中に入っていました。その後、すっかり紙の箱がなくなり、チューブのまま売られる様になったのです。しかし箱がないとチューブの蓋が開けられてしまう心配があったのですが、メーカーは様々なアイデアを駆使して対策を施して市場に出回り、今では勿論、紙の箱に入った歯磨き粉等ありません。それとほぼ時を同じくしてスーパーマーケットやドラッグストアではレジのそばに不要となったパッケージを素材別に捨てられるゴミ箱が登場し、消費者はなるべくゴミをださずに済む可能性が増えました。また、日本ではどこでもただでもらえるビニールの手提げ袋もドイツではだんだん陰をひそめ、それに変わって、綿で出来た手提げ袋が籐製の買い物かごを人々は持ち歩いています。綿の手提げ袋は折り畳めるので小さなバッグやポケットにも納まります。また、汚れても洗濯が出来るので何回でも使えます。(因にスーパーマーケットではビニール袋はレジで買うことが出来ます。)

これらのスタイルが私の滞在している間に導入され、市民に定着されていったことを自分の肌で直接感じることが出来たのは大きな収穫でした。

これらのことはゴミの問題から発生するものですが、それ以外にも自動車等の排気ガスの低減、ライトレールという新しい概念とシステムにのった路面電車の復活、太陽光や風力を始めとする自然エネルギーの効率的活用等、全ての分野に渡って今までの消費中心社会からの脱却が計られていることを実感しました。

日本人は元来、自然と共に生きる民族として歴史を重ねてきました。明治維新以後欧米の考え方を取り入れたため、生活が豊かになってきた反面、今の問題が山積しているわけです。日本は日本独自の方法でこの山積する環境問題を解決する手立てがあるのではないかと思います。日本はドイツに比べ日照は3倍近くに及び、山岳地帯は国土の70%を占め、克つ海に面しているため、自然エネルギーに於いては太陽光、風力、水力、地熱等多くの部分でドイツに比べ非常に恵まれた国土であると思います。

ドイツ的な問題の危機意識と問題に対して闘う行動力が今の我々日本人に問われているのではないのでしょうか。

私はこのドイツ滞りで得た経験をぐんま独日協会を通してこれらの環境問題に少しでも役立てればと思っています。

9月6日役員会 (宮城村/大崎つり堀)



9月6日の役員会は、鈴木理事のお世話で、場所は宮城村の大崎つり堀に移し、12時30分から行われた。出席者は16名。
この度、松本へ引越される朝雲理事の挨拶と、次いで沢山の著書の贈呈があった後、議事に入り、「会報の件」「クリスマス会の件」「来年のベルツ生誕150年の件」などが熱心に協議された。

ますの塩焼で昼食。会員の近況報告に続き、「ゴミ問題」の討論会となり、和気あいあいのうちに活発に意見が述べられ、時間の過ぎるのを忘れる程だった。3時すぎ散会。

お知らせ

高崎市在住の朝雲久兒臣副会長は、9月20日に長野県松本市へ居を移しました。

機関紙「ハイマート」の編集に毎回ご尽力され、ぐんま日独協会の活動を支援して下さいました。

松本在住になられても朝雲副会長のお力をお借りしたいと存じます。今まで通りよろしくお願ひします。

「国際交流まつり」 参加しましょう。

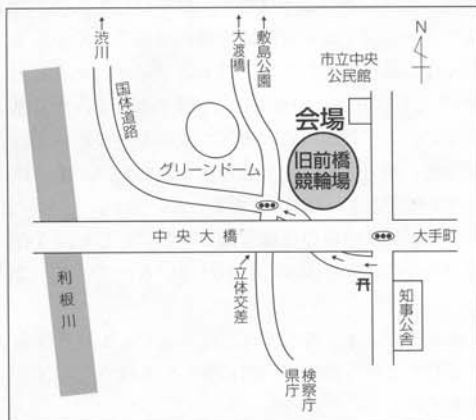
～であい・ふれあい・めぐりあい～

■開催日時

平成10年11月8日(土)
AM 9:00～PM 4:00

■会場

グリーンドーム東隣接広場
(前橋市大手町旧前橋競輪場跡地)



新刊紹介

『麻薬と覚せい剤』

田所 作太郎 (夫人は本会役員)

k.k星和書店発行

わが国では長い平和が続き、自由が保証され、庶民は落ち着いた日常生活を送っているように見える。だが、大半は残念ながら自己中心的に振るまい、見て見ぬふりを続けている。特に麻薬乱用問題については、医学的な知識がないと理解しにくいので、とかく敬遠されがちである。著者は群大医学部教授、現県立医療短大長としての長い研究生生活の成果を平易に噛み砕いて書かれたもので、各章独立していて、薬物知識を得易く、読み易い本である。



楽しいクリスマスの
集いへお友達も誘って
是非おいで下さい。
(表紙案内参照)

ドイツで料理人

「日本の食文化」を
貴方のお手でお伝え下さい。

最高級ホテル内・日本レストラン

開店スタッフ募集

まずは、お気軽にご一報下さい。

TEL/FAX : 0278-24-6389

SHIMIZU FOOD Business Agency (清水)

【新会員募集中】

希望者は下記へご連絡下さい。

〒371-0018 前橋市三俣町3-11-12

TEL 027-231-7212

FAX 027-232-4082

◇原稿ご案内◇

日独交流につながるご感想・情報・会員消息・作品を住所・氏名・職業・年齢・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただきますことがあります。(800字以内)

◎原稿の返却は致しません。宛先は表紙参照。